

2013 年 11 月 30 日

1. 海水淡水化セミナーに伴う現地調査

2013 年 11 月 10 日から 12 日にかけて、上村専門家は紅海州を訪問し、12 月 23 日に予定されている海水淡水化セミナーの開催準備を行いました。このセミナーは他のスーダン諸州とは異なり、水源の乏しい紅海州に不可欠な海水淡水化に関する公開セミナーで、モロッコから専門家を招聘します。紅海州水公社と協議したセミナーのプログラムが示されています。セミナーでは 4 名がそれぞれのテーマについて発表することになっています。また、発表後の討論では元水資源省大臣がモデレーターを務め、スーダンとモロッコの海水淡水化の現状と今後の対応を検討することになっています。

		
紅海州水公社との協議	公共事業大臣との協議	紅海州大学との協議

2. 第 4 回ジョイントセミナーの開催

11 月 17 日に第 4 回のジョイントセミナーが白ナイル州で開催されました。白ナイル州を選定した理由は、同じパイロット州でありながら、研修センターの施設維持管理に課題の多いセンナール州及び他の州に対して、白ナイル州研修センターの良好な維持管理体制を実感させることでした。

4 回目のジョイントセミナーには、DWST、7 州及びハワタプロジェクトの関係者が参加し、日本側からは大使館の書記官、JICA スーダン事務所関係者及び 5 名の専門家が参加しました。今回のセミナーでは専門家側が各研修センターを訪問して評価した結果を報告するとともに、エル・ゲジーラ州に対し「最優秀研修センター賞」を授与しました。その理由は、同州の研修センターがパイロット 2 州のような JICA 専門家による全面的な支援を受けず、自助努力で研修センターを良好に運営・維持管理していることが高く評価されたからです。しかもこの研修センターは昨年 12 月に完成したばかりですが、既に 14 研修コースを実施していたことも背景にあります。



満杯の会場の様子	最優秀センター賞の受賞	集合写真
----------	-------------	------

3. 太陽光セミナー

スーダンでは、科学・通信省の下部機関であるソーラー研究所が様々な取り組みを推進しているものの、太陽光利用は必ずしも順調には展開していません。このようなスーダンにおける太陽光利用の現状把握と今後の課題を整理するため、JICA スーダン事務所は11月21日にセミナーを開催しました。このセミナーには水資源・電力省、科学・通信省ソーラー研究所、飲料水衛生局、大学、民間企業がスーダン側から参加しました。

このセミナーでは、上村専門家がモロッコで導入した45台に及ぶ村落給水用のソーラポンプシステムを紹介し、その有効性、維持管理上の課題を説明しました。その後、大学、水資源電力省、民間企業の担当者がそれぞれの立場でスーダンにおける太陽光利用の現状と課題を発表しました。

		
上村専門家の発表	セミナー会場の様子	討論の様子

4. 衛生管理研修におけるゲジラ大学及びDWSUとの協議

衛生管理の門上専門家は11月16日にスーダン入国後、その日の内にパイロット州に移動しました。これは、11月17日にジョイントセミナーが開催されることから、このセミナーで関係者に門上専門家を紹介するためでした。門上専門家はパイロット州でベースライン調査を実施した後、11月25日から上村専門家と行動を共にし、衛生管理分野における各関係機関との協議を開始しました。

11月27日にはエル・ゲジラ州水公社からの提案を受け、ゲジラ大学の衛生分野の研究者と意見交換会を開催しました。ゲジラ大学は2008年よりSNOWS(Scientists Networked for Outcomes from Water and Sanitation: 水と衛生の成果に関する科学者のネットワーク)と呼ばれるプログラムを実施していて、既に多くの成果を出しています。11月27日の協議では、ゲジラ大学からSNOWSのプログラム紹介とその後衛生分野における協力関係が議論されました。この議論の中で、ゲジラ大学は本プロジェクトの衛生管理研修において講師の派遣を快諾しました。

		
ゲジラ大学 SNOWS 関係者との協議		DWSU のアマル総裁との協議

5. 揚水管の調達と機材検収

本プロジェクトの 3 年次には、ミニバスや揚水管を主体とする機材を調達することになっています。これらの機材の中で、揚水管に関しては大鹿専門家が 12 月 10 日から井戸管理研修で使用することから、最優先の機材として調達業務を進めてきました。その結果、肉厚の揚水管 100 本が 11 月 20 日にキロテン研修センターに納入されたことから、機材仕様、数量を主体とする機材検収を実施しました。検収の結果、揚水管に問題はなかったことから、揚水管は 11 月 23 日に白ナイル州、また、11 月 24 日にセンナール州に向けて搬送されました。

		
搬入された揚水管 100 本	機材検収の様子	検収終了後の様子

6. マザーナイルプロジェクトとの連携

スキ病院は、4 年前の 2009 年に White Nile Petroleum Company の資金協力で建設された救急病院であるものの、施設完成から約 3 年間病院としての活動を実施してきませんでした。その背景は色々ありますが、病院内への給水問題が大きな要因でした。今回連携の対象となるスキ病院の給水問題は、水源用井戸に設置されている既存のポンプの能力が低いために、高架タンクまで送水できないこと、また、専用のパイプラインを有していないため、老朽化しかつ漏水が多発している既存配管に接続したまま給水していることです。病院側は井戸や病院の設計図及び平面図を所有していなかったため、当然のことながら水源用の深井戸に関する情報が皆無です。よって、スキ病院の給水改善は抜本的に井戸改修から実施する必要があります。この問題が解決すれば、60 ベッドを有する中核病院として再稼働が可能になります。

		
病院の水源用井戸	ポンプハウスの内部	未使用の大口径井戸

7. 管網管理研修

山本専門家は11月10日から14日にかけてセンナール州で第2回の管網管理研修の研修を実施しました。この研修は4名の講師が担当し、8名の研修生が参加しました。アンケート調査によると、本研修の満足度は90%台以上で高評価でした。

		
開講式	配管溶接実技	漏水探知実技

8. データ管理研修

佐藤専門家担当のデータ管理研修はセンナール州で10月27日から11月7日まで、また、11月3日から11月14日まで白ナイル州で開催されました。パイロット州での2週間にわたる研修はデータ管理コースが最初でした。それぞれのコースの講師は一人で、これにセンナール州に9名、白ナイル州に14名の研修生が参加しました。研修生からの本コースの評価は極めて高くなっています。

		
センナール州研修実施状況	センナール州研修修了証の授与	集合写真（センナール州）

9. 水道料金管理研修

本プロジェクトでは3年次に料金徴収管理と衛生管理コースが新たに設置されました。料金徴収管理は小野寺専門家が担当し、スーダン入国早々本研修の準備を実施しました。研修の実施に際しては、料金徴収分野で研修実績を有するカッサラプロジェクトやハワタ

プロジェクトの連携を強化し、これらのプロジェクトから講師が派遣されました。また、スーダンにおける水道料金徴収は様々な課題に直面していることから、州水公社関係者の関心も高く、白ナイル州での研修にはこれまでで最大の 25 名を超す研修生が参加しました。これは白ナイル州水公社の総裁がこの研修の重要性を関係スタッフに理解させるために、特別に参加要請をした結果でした。

		
料金制度に関する討議	ハワタプロジェクト総裁の講義	集合写真

10. 衛生管理のベースライン調査

衛生管理担当の門上専門家は 11 月 16 日にスーダン入国後、ハルツームに滞在することなく直接パイロット州に移動しました。そして、衛生管理研修が 3 年次より新たに追加されたことから、他の研修コースの立ち上げと同様にパイロット州でのベースライン調査から開始しました。ベースライン調査では主に村落部のウォータースタンドにおける衛生状況を調査しました。

		
C/P との協議（センナール州）	Water Yard 周辺状況	共同水栓の状況

11. その他の活動

フェーズ 2 におけるパイロット州での大きな活動の特徴は、JICA 専門家とパイロット 2 州のスーダン側スタッフによる定期的な会議が開催されていることです。この会議において専門家は様々な課題を指摘し、カウンターパートの研修実施能力向上を指導しています。3 年次の活動の開始以降、これまでに 3 回の会議が各州で開催された他、11 月末には 4 回目の会議が白ナイル州で開催されました。

一方、大鹿専門家と木村専門家は 11 月 22 日に到着後、11 月 24 日にパイロット州に移動しました。そして、12 月から開始される井戸管理研修と機材管理研修の準備を開始しました。

		
センナール州料金管理打合せ	データ管理研修レビュー	管網管理研修レビュー

(略語説明)

DWST： Drinking Water and Sanitation Unit Training Center （飲料水・衛生局研修センター）